



平成23年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月14日

上場会社名 株式会社 梅の花

上場取引所 東

コード番号 7604 URL <http://www.umenohana.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梅野 重俊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼経営計画室長 (氏名) 上村 正幸

TEL 0942-38-3440

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年9月期第1四半期の連結業績(平成22年10月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年9月期第1四半期	7,904	6.9	290	77.7	178	14.9	△272	—
22年9月期第1四半期	7,392	△3.7	163	△4.2	154	—	140	35.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年9月期第1四半期	△4,714.14	—
22年9月期第1四半期	2,440.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年9月期第1四半期	20,850	3,154	15.1	54,678.40
22年9月期	18,329	3,454	18.8	59,864.31

(参考) 自己資本 23年9月期第1四半期 3,154百万円 22年9月期 3,454百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年9月期	—	0.00	—	500.00	500.00
23年9月期	—	—	—	—	—
23年9月期 (予想)	—	0.00	—	500.00	500.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年9月期の連結業績予想(平成22年10月1日～平成23年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	14,849	0.0	463	0.3	336	△29.1	△290	—	△5,034.00
通期	28,664	△0.2	680	17.7	446	22.0	△258	—	△4,474.90

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 ― 社（社名 _____）、除外 ― 社（社名 _____）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年9月期1Q 57,700株 22年9月期 57,700株

② 期末自己株式数 23年9月期1Q 一株 22年9月期 一株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年9月期1Q 57,700株 22年9月期1Q 57,700株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、平成23年2月9日付にて、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間における我が国経済は、景気がこのところ足踏み状態と言われております。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況のなかで推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは「店舗は舞台 お客様は観客 我々は一流役者 一流の料理と一流の接客でお客様に感動を与え続けます」を経営方針として、お客様に「感極まるサービス」を提供できるように取り組んでまいりました。

店舗の出退店につきましては、飲食店2店舗出店、テイクアウト店1店舗閉店、8店舗の分離独立により、当第1四半期末の店舗数は、248店舗（F. C. 店1店舗含む）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の業績は、売上高79億4百万円（前年同期比106.9%）、営業利益2億90百万円（前年同期比177.7%）、経常利益1億78百万円（前年同期比114.9%）となりました。また、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額3億69百万円の計上により、四半期純損失は、2億72百万円（前年同期は四半期純利益1億40百万円）となりました。

なお、セグメントの状況は次のとおりであります。

(外食事業)

広告販促手段をテレビコマーシャルに重点を置き、「気がねなく話せる個室」がある店舗イメージを発信し、夜にごゆっくりお食事頂けるお店をアピールいたしました。また、昼の来客数の増加を目的として、一部の店舗で昼限定忘年会メニューを提供し、席の回転率の向上を図りました。

デザートメニューは、和のフルーツを洋風にアレンジした新感覚のものを考案し、目にも舌にもおいしい一品として提供することで、客単価アップを図りました。

出店及び退店につきましては、梅の花は、10月に「奈良店（奈良県）」を出店し、70店舗（F. C. 店1店舗含む）、チャイナ梅の花4店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は、10月に新業態として「餃子屋一番（福岡県）」を出店し、3店舗となりました。従いまして、外食事業の全店舗数は80店舗、売上高は50億26百万円、営業利益3億66百万円となりました。

(テイクアウト事業)

出店及び退店につきましては、古市庵テイクアウト店は、10月に「熊本鶴屋店（熊本県）」を閉店し、134店舗となりました。

梅の花テイクアウト店は、従来、古市庵テイクアウト店に含めて管理していた8店舗、「新宿高島屋店（東京都）」、「金沢名鉄丸越店（石川県）」、「静岡松坂屋店（静岡県）」、「広島駅前福屋店（広島県）」、「恵比寿三越店（東京都）」、「志木丸井店（埼玉県）」、「都筑阪急店（神奈川県）」、「ラゾーナ川崎店（神奈川県）」を古市庵テイクアウト店より10月に分離独立させ、28店舗となりました。

その他店舗は、6店舗となりました。

従いまして、テイクアウト事業の全店舗数は168店舗、売上高は28億78百万円、営業利益1億60百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 連結財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ25億20百万円増加し、208億50百万円となりました。これは主に、現金及び預金が16億58百万円、季節要因により売掛金が4億81百万円、新規出店等により有形固定資産が3億17百万円が増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末と比べ28億19百万円増加し、176億95百万円となりました。これは主に、季節要因により買掛金及び未払金が6億25百万円、借入金の総額が14億82百万円増加し、また、資産除去債務6億39百万円を計上したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末と比べ2億99百万円減少し、31億54百万円となりました。これは主に、四半期純損失2億72百万円の計上によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して、16億58百万円増加し、22億92百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は5億19百万円（前年同期4億76百万円の収入）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純損失1億91百万円の計上、非資金的費用である減価償却費2億45百万円及びのれん償却費28百万円の計上、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額3億69百万円を計上したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は3億4百万円（前年同期5億59百万円の支出）となりました。

これは主に、新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出2億66百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、得られた資金は14億43百万円（前年同期9億70百万円の収入）となりました。

これは主に、金融機関からの長期借入れによる収入18億60百万円及び短期借入金の純増額8億3百万円と、長期借入金の返済による支出11億81百万円であります。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間の業績は概ね当初予想通りに推移しており、第2四半期連結累計期間及び通期の業績につきましても、現時点では平成22年11月12日に公表いたしました業績予想と変更はございません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. その他の情報

（1）重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

（2）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

適用した簡便な会計処理につきましては、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（3）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

（「資産除去債務に関する会計基準」等の適用）

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ7,871千円減少し、税金等調整前四半期純損失は376,895千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,670,510	1,011,665
売掛金	1,692,836	1,211,767
商品及び製品	88,294	65,736
原材料及び貯蔵品	183,169	126,128
繰延税金資産	209,880	176,100
その他	548,473	501,413
貸倒引当金	△1,458	△1,958
流動資産合計	5,391,705	3,090,854
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,038,154	6,723,450
機械装置及び運搬具（純額）	177,640	188,127
土地	4,595,376	4,595,376
建設仮勘定	27,732	53,750
その他（純額）	571,830	532,804
有形固定資産合計	12,410,733	12,093,509
無形固定資産		
のれん	780,470	809,376
その他	73,135	75,307
無形固定資産合計	853,606	884,683
投資その他の資産		
投資有価証券	66,541	64,247
長期貸付金	75,344	72,562
繰延税金資産	151,101	253,348
敷金及び保証金	1,777,685	1,750,554
その他	200,480	196,001
貸倒引当金	△76,977	△76,281
投資その他の資産合計	2,194,175	2,260,433
固定資産合計	15,458,515	15,238,626
資産合計	20,850,221	18,329,480

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	961,845	571,411
短期借入金	4,350,700	3,546,800
1年内返済予定の長期借入金	2,230,152	2,233,240
未払金	1,370,072	1,135,427
未払法人税等	10,651	33,300
賞与引当金	112,400	224,800
店舗閉鎖損失引当金	—	16,191
資産除去債務	24,449	—
ポイント引当金	77,606	72,223
訴訟損失引当金	10,305	10,305
その他	717,334	587,585
流動負債合計	9,865,515	8,431,283
固定負債		
長期借入金	6,375,519	5,694,296
退職給付引当金	163,612	159,183
デリバティブ債務	542,092	501,142
資産除去債務	614,846	—
その他	133,690	89,403
固定負債合計	7,829,761	6,444,025
負債合計	17,695,277	14,875,309
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,434,334	2,434,334
資本剰余金	1,811,323	1,811,323
利益剰余金	△1,086,862	△786,005
株主資本合計	3,158,795	3,459,652
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	873	△755
為替換算調整勘定	△4,725	△4,725
評価・換算差額等合計	△3,851	△5,480
純資産合計	3,154,943	3,454,171
負債純資産合計	20,850,221	18,329,480

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	7,392,223	7,904,860
売上原価	2,161,986	2,301,993
売上総利益	5,230,236	5,602,866
販売費及び一般管理費	5,066,772	5,312,332
営業利益	163,463	290,534
営業外収益		
受取利息	1,612	1,330
受取配当金	92	109
受取保険料	109	—
受取手数料	2,085	2,052
デリバティブ評価益	31,263	—
雑収入	13,579	12,370
営業外収益合計	48,742	15,862
営業外費用		
支払利息	45,509	43,884
デリバティブ評価損	—	71,888
雑損失	11,758	12,594
営業外費用合計	57,267	128,368
経常利益	154,939	178,028
特別利益		
店舗閉鎖損失引当金戻入額	2,271	—
新株予約権戻入益	455	—
貸倒引当金戻入額	—	500
その他	52	—
特別利益合計	2,779	500
特別損失		
固定資産除売却損	5,595	1,207
投資有価証券評価損	—	13
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	369,023
特別損失合計	5,595	370,243
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	152,122	△191,714
法人税、住民税及び事業税	7,680	6,314
法人税等調整額	3,637	73,977
法人税等合計	11,317	80,291
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△272,006
四半期純利益又は四半期純損失(△)	140,805	△272,006

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	152,122	△191,714
減価償却費	259,948	245,813
のれん償却額	28,889	28,906
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	369,023
投資有価証券評価損益(△は益)	—	13
賞与引当金の増減額(△は減少)	△83,293	△112,400
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△26,481	△16,191
退職給付引当金の増減額(△は減少)	9,089	4,429
貸倒引当金の増減額(△は減少)	394	196
ポイント引当金の増減額(△は減少)	4,857	5,383
受取利息及び受取配当金	△1,705	△1,439
支払利息	45,509	43,884
固定資産除売却損益(△は益)	5,595	1,207
デリバティブ評価損益(△は益)	△31,263	71,888
売上債権の増減額(△は増加)	△469,927	△481,068
たな卸資産の増減額(△は増加)	△73,806	△79,598
仕入債務の増減額(△は減少)	406,675	390,433
その他	320,041	305,710
小計	546,648	584,477
利息及び配当金の受取額	793	447
利息の支払額	△45,346	△42,408
法人税等の支払額	△25,109	△23,476
営業活動によるキャッシュ・フロー	476,984	519,039
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△50,553	△244
有形固定資産の取得による支出	△506,690	△266,310
有形固定資産の売却による収入	2,000	—
無形固定資産の取得による支出	△1,572	△1,710
固定資産の除却による支出	△3,910	△1,889
投資有価証券の取得による支出	△599	△620
貸付けによる支出	—	△2,840
貸付金の回収による収入	402	56
敷金及び保証金の回収による収入	31,230	5,070
敷金及び保証金の差入による支出	△15,779	△28,510
その他	△14,424	△7,334
投資活動によるキャッシュ・フロー	△559,897	△304,332

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,130,600	803,900
長期借入れによる収入	550,000	1,860,000
長期借入金の返済による支出	△673,844	△1,181,865
リース債務の返済による支出	△1,331	△6,732
割賦債務の返済による支出	△6,005	△2,526
配当金の支払額	△28,872	△28,883
財務活動によるキャッシュ・フロー	970,545	1,443,892
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	887,633	1,658,600
現金及び現金同等物の期首残高	699,722	633,913
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,587,355	2,292,513

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

	外食事業 (千円)	テイクアウト 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	4,555,339	2,836,883	7,392,223	—	7,392,223
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,177,230	14,454	1,191,685	(1,191,685)	—
計	5,732,570	2,851,338	8,583,908	(1,191,685)	7,392,223
営業利益	320,954	82,034	402,988	(239,524)	163,463

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分に属する主要な事業の内容

(1) 外食事業・・・湯葉と豆腐懐石料理等の飲食店経営及びその付帯事業

(2) テイクアウト事業・・・とうふしゅうまい、湯葉揚げ、寿司等の持ち帰り専門店経営

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

全セグメントの売上高の合計額に占める「日本」の割合が90%超であるため、記載を省略しております。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

該当事項はありません。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、サービス形態別のセグメントから構成されており、「外食事業」及び「テイクアウト事業」の2つを報告セグメントとしております。

「外食事業」は、「湯葉と豆腐の店 梅の花」を中心とした店舗を運営しております。「テイクアウト事業」は、「古市庵」の寿司テイクアウト店および「梅の花」のテイクアウト店を中心とした店舗を運営しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,026,224	2,878,635	7,904,860	—	7,904,860
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,663	20,572	22,236	△22,236	—
計	5,027,888	2,899,208	7,927,097	△22,236	7,904,860
セグメント利益	366,087	160,461	526,548	△236,014	290,534

(注) 1 セグメント利益の調整額△236,014千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。